

# 平成30年度学校評価外部報告書

兵庫県立加古川南高校 学校評価委員会

**総合評価 B+**  
(データ平均値 73.1)

テーマ	領域	重点目標	評価項目 No.	評価項目	主たる担当部署	領域の達成状況	重点目標の達成状況	評価項目の達成状況	保護者評価	生徒評価	教員評価	次年度に向けた改善の方策 (2019年2月記入)	課題と来年度に向けての提言			
夢や志を育む学校をめざして	領域1 キャリア教育の充実	産社・総学の充実	1	自己理解・自己管理ができるとともに、コミュニケーション能力が向上した。	総推・各年次	B+ (74.5)	B+ (76.1)	B+ (75.0)	3.1	2.9	3.0	<p>【1年次】 生徒にどんな力を身につけさせたいのかを、もう少し強く押し出してもよかった。書く力、話す力など具体的にあげ、2年次につながるような指導を積み重ねたい。</p> <p>【2年次】 年間や時間ごとの目標をもっとしっかり理解させた上で、課題解決に取り組ませる必要がある。意欲的に取り組めるような計画を立てていきたい。</p> <p>【3年次】 早期から就職先を考え、面接などの対応が必要である。事前に準備ができていない生徒は良い結果に繋がる。</p> <p>【総合学科推進部】 1年次産社の各種取り組みが、働くことの意義や役割など将来の進路意識の向上に役立っていることがうかがえるが、その情報等を活用できるところまでは至っていない。その部分が2年次につながっていくように産社の後半プログラムの改善に取り組む。</p>	<p>●事前にはしっかりと準備をしたことで良い結果が出た事例は下の年次に引き継いでいくことが大切である。</p> <p>●面接練習に関しては個人面接だけでなく、グループ面接やディスカッション等も練習をすることが必要ではないか。</p> <p>●生徒の情報を共有するために、職員会議での報告に限らず、データとしての記録も残して職員が見やすい状態にしておくことが大切であるが、どのような形で共有するのがベストか考えないとけない。</p>			
			2	課題に対して情報を適切に処理し、課題解決していく力が向上した。	総推・各年次			B+ (73.3)	3.0	2.9	2.9					
			3	働くことの意義や役割を理解し、進路意識や職業観が向上した。	総推・各年次			A- (80.0)	3.3	3.2	3.1					
		進路の達成	4	希望する進路に向かって地道に学習する生徒を増やした。	進路・各年次		B+ (74.2)	3.0	3.1	2.8	<p>【1年次】 意欲ある生徒に対して主任・副主任面談を実施したり、進路LHRを追加で実施するなど、学習意欲喚起に努めた。次年度も個に応じた声掛け、学習意欲喚起に努める。</p> <p>【2年次】 面談を何度も行うことで、進路意識を高め進路希望を把握することが大切である。担任だけでなく年次団や専門部とも情報を共有する。</p> <p>【3年次】 早くからの面談、志望校の選択を行い、多様化する大学入試方式の研究、対策が求められる。</p> <p>【進路指導部】 生徒の進路希望について情報交換会を7月、10月、12月、1月に行い、3年次と緊密な情報を共有する。</p> <p>【総合学科推進部】 キャリア教育が進路に少なからず影響を与えてはいると思うが、個々の取り組みについて、単独の取り組みにならないように、進路指導部と連携しながら進路の視点をできるだけ反映させていく。</p>			<p>●職員・生徒間における意識の差を縮めるためには、コミュニケーションを密することが大切ではないか。</p> <p>●全体の平均だけではわからない細かな部分に目を向けることも重要である(年次間比較をする、できない生徒への個別指導・フォローアップを考える、など)。</p>		
			5	進路実現に向けて個に応じたきめ細やかな指導を実施した。	進路・各年次		B+ (75.0)	2.9	3.0	3.1						
			6	キャリア教育と進路指導が連携し、効果が上がった。	総推・進路・3年次		B+ (70.0)	2.8	2.7	2.9						
		ガイダンス機能の充実	7	納得のいく科目選択のために丁寧なガイダンスが実施された。	総推・1,2年次		B+ (78.3)	3.1	3.1	3.2					<p>【1年次】 意欲ある生徒に対して主任・副主任面談を実施し、入試科目の説明などを行った。各自の長所をいかした進路決定ができるように、次年度も個別の声かけを続ける。</p> <p>【2年次】 年次の中だけで終わるのでなく、専門部との連携し、他年次も含め学校全体として流れを作っていく。</p> <p>【3年次】 ガイダンスをだけでなく、進路指導部と連携しながら、担任が受け持つ生徒のニーズに合わせた、情報共有が必要である。</p> <p>【進路指導部】 より適切な時期に生徒・保護者に対してガイダンス・説明会を実施する。</p> <p>【総合学科推進部】 1年次産社の時間を活用し、キャリア教育の一環としての科目選択(部分)をどう実現していくか、年次と検討会を持って取り組んでいく。</p>	
			8	進路実現に向けて効果的な情報提供がなされた。	進路・各年次		B+ (77.5)	3.0	3.1	3.2						
			9	生徒の情報が教員間で共有され生徒の意欲向上につながった。	各年次・各教科		B- (67.5)	2.8	2.4	2.9						

テーマ	領域	重点目標	評価項目No.	評価項目	主たる担当部署	領域の達成状況	重点目標の達成状況	評価項目の達成状況	保護者評価	生徒評価	教員評価	次年度に向けた改善の方策 (2019年2月記入)	課題と来年度に向けての提言	
夢や志を育む学校をめざして	領域2 学力の向上	授業改善	10	わかりやすい授業、意欲を高める授業を実施した。	全職員	B- (69.0)	B- (67.2)	B- (68.3)	2.6	2.5	3.1	【教務部】 すべての項目に共通して、教員の評価に比べて保護者・生徒の評価はかなり低いと言わざるを得ない。授業改善の取り組みを行っても、それが多くの生徒には届いていないと感じられる。また、公開授業について今年度は大きく実施方法を変更したが、昨年度と比較して教員からの評価ポイントも変化は見られない。次年度以降、更なる改善が必要かもしれない。  【全職員】 教員の自己満足に終わらないよう、授業評価アンケートを実施して自身の授業に対する反省材料を見つける。また、教科指導に関する職員研修を積極的に行う。	●学習習慣の定着のために、授業以外での学習が必要。そのために自習場所の提供やシラバスに予習・復習の具体的内容を記載する等の工夫をしてほしいか。  ●授業に関する部分の生徒評価が低いのを改善するために、授業内容の見直しや予習復習の効果的な方法を教える等が必要ではないか。  ●授業の中で音読する経験を増やして、読み方について学ばせることも重要である。  ●必要性を感じられたら、生徒は行動を起こすことができる。どのように意識を持たせるかを考えていくことが大切。  ●高校生がもっと図書館を活用する手立てが必要ではないか。  ●学びに対する意欲の差は進路希望先(大学or専門学校)で差が出るので、家庭学習での課題の量はバランスを取る必要がある。そして取り組ませ方をどう工夫するかが重要では。  学習習慣は昔から引きずっているもので、すぐに改善は難しい。生徒の意欲をどう引き出すかではないか。	
			11	主体的・対話的で深い学びの視点に立った学習過程の改善に取り組んだ。	全職員			B- (65.8)	2.6	2.4	2.9			
			12	授業公開や生徒による授業評価を取り入れるなど授業改善に取り組んだ。	教務・各教科			B- (67.5)	2.7	2.4	3.0			
		カリキュラムの充実	13	進路達成に応じた、多様な科目を設定した。	教務・各教科		B- (69.0)	B+ (75.3)	A- (84.2)	3.4	3.5	3.2		【教務部】 科目設定については、保護者・生徒からは概ね良好な評価を得ているが、授業改善の項目とは逆に、教員からの評価が低いように感じられる。今後、学級数減や新学習指導要領への対応など、あらゆる面で教育課程の見直しや大幅な変更が必要であると感じる。
			14	学力向上を目指したカリキュラムを設定している。	教務・各教科				B+ (76.7)	3.3	3.3	2.6		
			15	新学習指導要領に対応した教育課程編成の準備をした。	教務・各教科				B- (65.0)			2.6		
		学習習慣の定着	16	家庭学習習慣を定着させた。	各年次・教務		B- (64.7)	B- (60.8)	B- (69.2)	2.8	2.3	3.2		【1年次】 SHRや週末課題として取り組ませている1分間チャレンジ(新聞のコラムの書き写し等)、家庭学習時間の記録を次年度も継続していく。 【2年次】 朝の小テストや週末課題など継続的な実施が必要である。また、自学自習などの習慣も身につけさせていきたい。 【3年次】 朝の小テスト、週末課題など家庭学習習慣の定着をはかることが重要である。また補習をいつから行うのか、夏休みの自習教室など学習ができる環境を作ることが必要だと思う。 【教務部】 基礎学力向上のためには家庭学習習慣の定着は重要な部分であるという認識のもと、生徒の実情を踏まえつつ宿題・課題の適切な難易度や分量などを見直していく。 【図書情報部】 全校的な取り組みとして朝読書を継続して行う。図書館としては、本の廊下展示やビブリオトークを通じて、図書館および本の魅力を発信する。
			17	予習・復習をさせる手立てを組織的・計画的に実施した。	各年次・教務				B- (60.8)	2.6	1.9	2.8		
			18	読解力の向上を目指して、朝読など読書活動を実施した。	図書情報・各年次				B- (64.2)	2.6	2.1	3.0		

テーマ	領域	重点目標	評価項目No.	評価項目	主たる担当部署	領域の達成状況	重点目標の達成状況	評価項目の達成状況	保護者評価	生徒評価	教員評価	次年度に向けた改善の方策 (2019年2月記入)	課題と来年度に向けての提言					
夢や志を育む学校をめざして	領域3 人間力の育成	生活指導の充実	19	交通マナーの向上に努め、自転車事故の低減を図った。	生徒指導・各年次	B+ (76.7)	B+ (71.7)	2.9	3.1	2.6	【1年次】 SNSの使い方や人間関係の築き方等について指導してきたのだが、まだまだ不十分と言わざるを得ない。次年度も根気強く指導を続ける。 【2年次】 交通事故トラブルが多かった。通学路の安全確認や、定期的な交通ルールの厳守、交通マナーの徹底が必要である。 【3年次】 交通マナーを徹底するとともに、命の尊さを感じ、HRや年次集会、全校集会で促す。進路決定後の頭髪、服装の乱れが目立った。生徒指導部と連携し校則を守るよう働きかける。 【生徒指導部】 交通事故の件数を減少させるために全校集会等で啓発したりスケアードストレイト等を実施したい。SNS講演会を開催し、トラブルを起こさないよう指導したい。	●交通マナーの向上について、自動車から見た自転車はどのようなものを映像などで伝えたり、事故の悲惨さを伝える資料を提示するなど、目先を変える必要がある。 ●ボランティア体験の重要性が高まっている中、ボランティアを単位として認定したり、ボランティア自体の存在を幅広く周知させることを考えてみてはどうか。 ●服装や頭髪について、昔と比べると先生方の指導でずいぶん良くなったと思う。 ●ボランティアにかかわることで生徒は大きく成長し、変われる。そういう意味でボランティア活動が活発なのは良いことである。ただ、特定の子どもだけがかわるのではなく、全員が経験するような工夫が必要ではないか。 ●学校周辺に住んでいるが、交通マナーは良くなったと思う。また地域との連携においても助かっている。ホームページも良くなった。						
			20	ネット依存・トラブル防止のため、情報モラルの高揚に努めた。	生徒指導・各年次								B+ (76.7)	3.0	3.2	3.0		
			21	端正な服装・頭髪ができるなど規律正しい学校生活を送らせた。	生徒指導・各年次								B+ (75.2)	A- (80.0)	3.4	3.4	2.8	
			22	定期的にアンケートを実施し、いじめの未然防止、早期発見・解消に努めた。	生徒指導・保健・各年次								B+ (76.7)	3.0	3.0	3.2		
			23	生徒の悩みを聞く体制がとられており、共通理解に基づいた対応ができた。	生徒指導・保健・各年次								B+ (70.8)	2.8	2.6	3.1		
		課外活動の充実	24	部活動を活性化し、自主性や豊かな人間性を育んだ。	全職員								B+ (75.8)	B+ (75.8)	3.0	3.0	3.1	【総務部】 学校生活における委員会活動の活性化を図るため活動内容を検討する。 【総合学科推進部】 各種行事で、実行委員等を募集し、積極的に動く態勢はできているが、次の段階として、言われて動くのではなく、自分たちで考えて動けることを身に着けさせる。 【生徒指導部】 部活動については短時間での効率の良い活動を心掛け、いきいき部活動4訂版に沿った活動にする。
			25	生徒会活動や学校行事を通して主体性が育まれた。	総務・総推・生徒指導													
		地域との連携充実	26	ボランティア活動やインターンシップなど、地域と結びついた活動が活性化した。	生徒指導・総推								B+ (79.2)	A- (82.5)	3.3	3.1	3.5	【生徒指導部】 ホームページについては出来るだけ見やすく、タイムリーな情報を発信するようにする。ボランティア活動においては校内での告知活動を活性化しボランティアに参加する生徒をもう少し増やしたい。 【総合学科推進部】 インターンシップ等、活動は活発ではあるが、例年通りであるので、過去を振り返り一部手直しを加えていく。
			27	ホームページ・各種学校通信など学校からの情報発信は効果的に行われた。	全職員													

テーマ	領域	評価項目 No.	評価項目	主たる担当部署	領域の達成状況	重点目標の達成状況	評価項目の達成状況	保護者評価	生徒評価	教員評価	次年度に向けた改善の方策 (2019年2月記入)	課題と来年度に向けての提言
夢や志を育む学校をめざして	領域4 教師力の向上	28	生徒に寄り添い、厳しさと温かさをもってカウンセリング力、コーチング力の向上に努めた。	全職員	B+ (72.2)		B+ (73.3)	3.0	2.7	3.1	【全職員】 時代の変化を受け入れ、より実状に合わせた指導の在り方を教員1人1人が考えていく。また年次間で指導のバラつきが出ないように、一貫した指導の証拠となる基準を明文化する。また、職員研修や情報交換を積極的に行うことで指導力の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ほんの小さなことでも、子どもにとってはショックを受けるようなことはある。生徒のことをもっとよく知る努力をし、コミュニケーションを密にとるようにすることが大切。</li> <li>●他校の職員と情報交換をする機会を設け、指導の在り方について考え直してみる。</li> <li>●先生方も井の中の蛙にならないように、時代の変化を受け入れて、いろんな物を見る必要がある。</li> <li>●生徒を元気にする、学校に来たら元気が出ると思わせるためには、先生から挨拶したり、生徒によく来たねと思うマインドが必要。</li> </ul>
		29	ニーズをつかみ、変化する時代に対応するために総合的な教師力の向上に努めた。	全職員			B+ (70.0)	2.9	2.6	2.9		
		30	報告・連絡・相談を密にとり、「チーム学校」としての教育力の向上に努めた。	全職員			B+ (73.3)	3.0	2.8	3.0		